

ばんけい

教育ほんといゅーず
かわら版こ みち
教育の小径 No.201
2025 July
7月号

(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

猫に小判

価値のわからない人に
値打ちのあるものを
与えても無駄であるこ
とのたとえです。同様
な表現に「豚に真珠」
があります。

教師の悩みをどう解消するか

- 世代や職場を問わず、さまざまな原因や理由で「心の不調」を訴える人が増えています。学校の教師にもいえます。
- 「心の不調」には、「早期に気づき、早期に対処する」ことがポイントです。全教職員で見守り、支え合う温かい職場をつくることが重要です。

今月の
記念日 7月31日
蓄音機の日

発明家のトーマス・エジソンは、この日発明した蓄音機の特許を取得しました。当時は円筒型をしており、針で溝をつけて録音もできました。

心に悩みをかかえる現代人

世代を問わず、何らかの悩みをもつ人が増えているといえます。悩みの原因には、家庭や家族のことや経済的なこと、健康や人間関係に関わることなどがあります。ここでは、主として心の不調による悩みを取り上げます。

厚生労働省が公表した「白書」によると、全国の子どもの精神疾患の外来患者数は年々増えつづけ、令和2年には586万人に上ったそうです。全人口のおよそ20人に1人が患っていることになりました。教師も人間です。いつ「心の不調」に陥るかわかりません。学校でも毎年心の病で長期休職したり退職したりする人がいます。令和4年度に精神疾患で休職した公立学校の教員は、6,539人で過去最多数でした。

教師が心の健康を損なう原因には、職務に関することだけでもさまざまあります。例えば、子どもたちにわかるように教えられない。子どもたちを集団として指導できない。課題のある子どもの指導がわからない。これまでの指導方法では子どもが付いてこないなど授業や子どもに関することがあります。また、デジタル化や英語教育など新しく求められている課題や指導に十分対応できない。保護者からの理不尽

な要求や多様な要望への対応の仕方がわからない。仕事が多忙で毎日の生活にゆとりがなく追い詰められている。職場の管理職や同僚との人間関係がうまくいかず、孤独になっているなどの原因もあります。これらが引き金になって心が病むことがあります。

各学校では、心の不調による休職者や退職者を出さない取り組みが求められます。すべての教職員が生きがいをもち、安定した心で仕事ができるようにしたいものです。

早期に対処することが重要

人は環境のなかで生活していますから、人的な環境が大きく変わったときは特に配慮します。例えば年度はじめに職場の人間関係が変わったり、新しい学級を担任したりしたときです。学校を異動したときも注意が必要です。新しい環境を受け入れるまでに時間がかかったり、変化をスムーズに受け入れられなかったりするからです。

心の不調には体の不調と同じように「早期に気づき、早期に対処する」ことが肝要だといわれています。心につもと違った異変を感じたときには、一人で抱え込まず、家族や職場の身近な人に相談するようにします。

人によっては、遠慮して自分から相

談することを躊躇する傾向があるといえます。周囲の人はたとえ小さなことでも、変化や不調に気がついたとき声をかけて相談にのったり、公的な相談機関を紹介したりします。専門医や臨床心理士の診察や、カウンセラーなどから助言を受けるよう勧めることも大切です。自分のストレス状態を把握できるセルフチェックのシステムを活用することも有効です。

管理職は毎年実施している教職員の「ストレスチェック」の結果をみて、特に前回実施から変化しているところに注目します。気になったときは、校医や産業医と連絡をとって早期に対処します。その際、本人に寄り添い、本人の思いや意向を重視します。

近年、どの職種の職場でも、パソコンやインターネットの普及によるのでしょうか。人と人との直接的な関わり合いが薄れてきたといえます。職場や社会において孤立化・孤独化が進行しているようです。職場に支え合う雰囲気と人間的な触れ合いがなければ、充実した仕事はできません。

退勤後には仕事のONをOFFに切り替え、「自分の時間」をつくるようにします。ときには仕事を離れた付き合いも必要です。一緒に食事をしたり演劇を鑑賞したり、さらにスポーツを楽しむことも大切です。

① 新学級 経営の 基礎知識

欠席した子どもへの連絡・指導

子どもが欠席すると、学級担任として気になるものです。休むことにはいろんな理由があります。

病気やけがをして学校を休んだ子どもには、早く治して再び元気に登校するよう励まします。勉強が遅れるなど不安を煽ることは禁物です。インフルエンザや新型コロナウイルスなどの伝染病の場合には、決められた期間を家庭で過ごすことを徹底します。学校に復帰したあとに、学習の遅れを取り戻すための指導を行います。個別に家庭での課題を与えることもあります。

休みがちな子どもには早期に家庭訪問や保護者との面談を行い、休む理由を確認します。「3日連続して休んだ子どもには家庭訪問をする」といったルールを決めている学校もあります。休みがちな子どもには何らかの理由があります。それを早めに取り除くよう努力します。児童相談所など専門機関の助言を受けることも大切です。ポイントは重症化、長期化しないよう早期に対処することです。久しぶりに登校するときには不安になるものです。みんなで温かく受け入れます。

学級に長期に休んでいる、不登校の子どもがいる場合もあります。家庭でどのように過ごしているのか。保護者と定期的に話し合いの場を設けます。学級の子もたちの意識が薄れないよう常に居場所を確保し、学級の一員としていつでも受け入れる体制をつくっておきます。ケースによっては、その子どもに合ったほかの教育施設を紹介することも考えられます。

学級に在籍する子どもを一人も取り残さないという意識をもち、休みがちな子どもには特に手厚く対処します。

教育の動向 ● デジタル教科書「中間まとめ」

文部科学省の中央教育審議会のデジタル教科書推進ワーキンググループはこれまでの審議内容を「中間まとめ」としてとりまとめ公表しています。

中間まとめでは、これまで「代替教材」だったデジタル教科書を「正式な教科書」としています。いわば格上げした恰好です。また「当面の間」は、従来の紙の教科書とデジタル教科書、それに一部デジタルで作られたハイブリッドな形態の教科書の3通りの教科書を認めると明記しています。

決定後には、デジタル教科書も文部科学省による検定、教育委員会による採択が行われるようになり、無償給与の対象になります。各教育委員会は

3つのタイプの教科書から域内で使用する教科書を選択するようになります。教育委員会は、内容はもとより形態についても基準にもとづいて検討され、教科書を決定することになります。導入時期は、現在審議されている次期学習指導要領の実施に合わせて使用できるようにするとしています。

「中間まとめ」は、デジタル教科書の導入に当たってさまざまな課題も指摘しています。例えば、情報環境面や活用面の課題とともに、子どもの視力低下など健康面、記憶や学力への影響についても示しています。

今後の方向は、この秋に最終決定されるようです。

連載 先人の残した言葉 21

城戸 幡太郎

教材と教科書とを間違えてはならぬ。

城戸幡太郎は心理学者で、戦前、戦後を通じて、教育に強い関心をもちつづけました。雑誌『教育』を刊行し、教育科学研究会を結成したことで知られています。戦後は国立教育研修所所長を務め、その後、北海道の教育に積極的に貢献したといわれています。

この言葉は、城戸が著した『生活技術と教育文化』のなかにあります。ここでは、「教科書は教材ではない」というので、これまで「教科書教材」という用語に慣れ親しんできた立場からすると、異様さを感じさせます。「教科書は教具だ」というのが、城戸の考えです。

例えば国語科の教科書には、さまざまな作家の物語や記録文、ポエムなどが掲載されています。これらの文章を子どもたちは直接読み取り、理解を深めています。

これこそが教材であり、教科書はこれらの教材を配列して入れた物、教える際の道具です。その意味で「教具」といつているようです。子どもたちが手にしているタブレットを教材といわないのと同じです。

これまで「教科書」を教えるのか。「教科書で」教えるのかと議論されてきました。教材と教具をソフトかハードかで区別することにより、このことの答えが自ずから出てきます。

教材研究を行うとき、例えば社会科においては、教科書の中身を読んで理解させることを研究することではなく、対象となる社会的現象を教材として捉え、その扱い方を研究することです。

城戸の言葉から、これまで「教科書教材」と当たり前にいつてきたことにハッとさせられます。

INFORMATION

＼ご注文は文溪堂代理店まで／

この夏から学びが変わる

夏休み 教材 ナツカラ

国語 算数

全体監修 田中 博史先生

国語監修 桂 聖先生

1～4年 各380円(税込)
5・6年 各400円(税込)



「教育の小径」の
すべてのバックナンバーを
文溪堂ホームページから
お読みいただけます。

お知り合いの先生にも
お勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

編集後記

今号のコラムでは、城戸幡太郎の言葉とデジタル教科書の話題がリンクしています。デジタル教科書に関するいかなる議論も、まず城戸が考えたように「教材」と「教具」を峻別することがスタートになると感じました。(H記)



ぶんけい
きみの手に、みらいの夢を。

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2025年7月1日